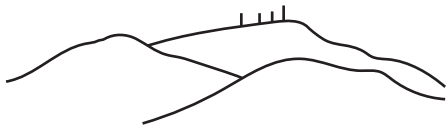


Youth Manna

2021/1/18 - 1/24



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2021/1/18(月)

民数記 8 章

幕屋での奉仕のために、神様はレビ人をきよめるように命じました。彼らは自分自身の身をきよめて、ささげものをして、神様の前に進み出ました。神様に仕えるものとして、レビ人たちは自分自身を神様にささげただね。

私たちはどのようにして自分をきよめることができるだろうか？ 私たちの罪のために流された、イエス様の血によって私たちはきよめられて、神様の前に出ることが出来るんだ。

神様に仕えたいと思うなら、そのために第一にすべきことは、イエス様に近づくことです。自分の力によってではなく、イエス様の血できよめられた人は、神を見る人となります(マタイ 5:8)。今へりくだって、イエス様の前に出て祈ろう！

2021/1/19(火)

民数記 9 章

主がエジプトを打たれたとき、主はエジプトにいたイスラエルの家を通り越して、イスラエルの家々を救われました。過越のいけにえは、そのことを覚えるため命じられたことでした。

新約の時代、救いはイエス様によって与えられました。私たちの信仰の原点であるイエス様を、いつも覚えることは大切なことだね！

15 節～、幕屋が設営された日に、雲が幕屋を覆いました。民は雲が幕屋から上る時に旅立ち、雲がとどまる時その場所で民は宿営しました。今、私たちは何を持って神様の導きを知ることが出来るだろうか？ イエス様を信じる者に与えられている聖霊によって導かれて、私たちは進んでいきます！ 教会はそのように前身してきました。聖霊を愛し、心を開こう！ 導きを求めて祈っていきましょう！

2021/1/20(水)

民数記 10:1-10

10 章 10 節から、いよいよ本格的な荒野の旅が始まる。今日の箇所含め、これまでは、神の民イスラエルの荒野の旅への備えについて見てきた。主は、イスラエルの民が荒野を旅するために、細かな配慮をし、備えをしてくださった。主の備えがあって、前進することができるのである。

この箇所では、ラッパの音について主が命じられている。膨大な数のイスラエルの会衆が集まり、宿営を出発させるには合図としてラッパの音が必要であった。また侵略者との戦いにでるとき、例祭と新月の日にいけにえを献げる時もラッパによる指示があった。

主は私たちのために備えをし、必要な時に語ってくださる。その声に従うことができるように。

2021/1/21(木)

民数記 10:11-36

今日の箇所では、イスラエルはいよいよシナイの荒野から旅立った。(12 節) その合図は雲が幕屋から離れてのぼることで、それは主の命令(合図)であった。

そして旅立つ順番も民族ごとに決められていた。それも主の命令による。(14-28)

神様によって道は示されている。あなたは神様の命令に従い歩んでいくだろうか。神様の示しになる道を祈り聞き従おう！

ウクライナ統一の日 2021/1/22(金)

民数記 11:1-15

▶主の命により旅立ち、主の命により宿営していた順調な旅が激変する。民は主に対して繰り返し激しく不満を言った。また激しい欲望をきっかけに、肉が食べたいと大声で泣いた。ついには主が与えたマナを否定する。

▶急に民の態度が変わったのはなぜだろう？ それは、旅立ちや宿営は集団行動だったが、日々の食事は個人的なことだったからではないか。私たちも神の家族と一緒にいる礼拝やキャンプのときは、賛美をし御言葉を聞か、一人ひとりの日々の生活に戻ると神様を忘れた生き方をしてしまうことが多い。

▶民が不平不満を言い泣き叫んだとき、モーセは辛くなりながらも、主に祈った。私たちが神様を忘れた生き方をすると、悲しみながらもあなたのために祈るイエス、聖霊、神の家族がいる。1 人での弱さを認めつつ、信仰をもった生活ができるように祈ろう！

2021/1/23(土)

民数記 11:16-35

モーセは従っている神様と、不満ばかり言う人々の間で苦しんでいたね。その中で、神様はモーセが一人で背負うことのないように 70 人の長老を選んで立てるように語った。

さらに神様は人々がマナという食べ物を与えられているのに、肉が食べたいと不満を言っているのを聞いて、悔い改めるチャンスも与えてくださった。だけど実際は悲しいことに、悔い改めるどころか自分たちの欲しいままに与えられたものを扱ってしまう人々。そこに神様の怒りがくだったね。

私達も神様の恵みを忘れると、すぐに足りないものに心が向かってしまう弱さがある。

神様のみことば、恵みに満たされることを進んで受け取ろう！

2021/1/24(日)

民数記 12 章

ミリアムとアロンはモーセの異邦人の妻のことで、モーセを非難し、神様のしもべであるモーセの権威そのものに対する反抗をしました。しかし、続けてモーセが地上で誰よりも柔和であったと書かれています。

モーセは二人の非難に対して怒って言い返したりせず、一切のことを神様に委ねていました。そこに神様の介入があり、ミリアムはツアラアトに冒されてしまいましたが、モーセは神様にミリアムの癒しを求めてとりなし、神様はそれに答えてくださいました。モーセが誰よりも柔和であったのは、恵み深く誰よりもあわれみ深い神様を知り、信頼していたからでした。

同じ神様を知り、信じる私たちの心はどうでしょうか。誰よりも柔和であわれみ深い神様に、祈り、柔和な心を注いでくださるように求めよう！